北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	韓国文化論特殊講義	科目コード	8004	単位数	2
担当者名	水野　俊平	開講時期	１前／１後	開講年次	1年次

授業の到達目標及びテーマ

伝統的な儒教秩序、血縁意識、感覚世界の言語化（色彩・オノマトペ）から、現代社会におけるジェンダー、ジェネレーション、グローバル化に伴う言語変容までをマクロ・ミクロの両視点から検証する。受講生が単なる言語スキルの修得にとどまらず、社会言語学や認知言語学のアプローチを用いて韓国社会の精神構造やコミュニケーションの本質を批判的に考察し、自らの研究へと発展させる力を養う。

授業の概要

「躍動する北東アジア地域の発展に貢献する」という本学の教育方針、および「国際的視野に立つ異文化コミュニケーション能力の涵養」という学位授与方針を踏まえ、本講義は、韓国語の語彙、文法、および言語行動に刻まれた文化的・社会的背景を多角的に分析し、「言語」と「社会・文化」の相互連動性について深い知見を得ることを狙いとする。

授業計画

1週目 韓国の言語文化とは何か。言語と文化の関係とは：言語が文化を映す鏡であり、同時に思考を規定するという「サピア＝ウォーフの仮説」を手がかりに、言語文化学の基礎理論を学ぶ。韓国語特有の構造や語彙が、韓国人の世界観や社会構造とどう連動しているか概観する。
2週目 韓国言語文化と色彩語彙：基本色彩語（赤、青、黄、白、黒）の文化的象徴性（陰陽五行思想など）を紐解く。また、「黄色い」に代表される、韓国語特有の豊かな色彩の派生語・感覚語の体系性と、その情緒的ニュアンスを分析する。
3週目 韓国言語文化と親族名称語彙：父母の兄弟姉妹や義理の家族に対する極めて緻密な親族名称の体系を分析。これが家父長制や宗族（門中）といった伝統的な血縁社会の構造をいかに維持してきたか、また現代の家族形態の変化に伴う簡略化の動きを考察する。
4週目 韓国言語文化と人称代名詞：韓国語において二人称代名詞が使いにくい、あるいは極めて限定的に使われる理由を社会言語学的に分析。主語や代名詞の省略が日常会話で頻発する背景にある、話者間の心理的距離と関係性の力学を明らかにする。
5週目 韓国言語文化とあいさつ表現：「食事をしましたか」や「どこに行くのですか」といった、直訳するとプライバシーに踏み込むような挨拶表現の文化的意味を検討。相手への関心や情の表現としての挨拶の機能と、時代による変化を分析する。
6週目 韓国言語文化と呼称問題：職階、年齢、社会的関係（サジャンニム、イモ、オンニなど）に基づく複雑な呼称の選択基準を検証。近年、一般企業や社会運動で進められている「呼び捨て・ニックネーム制」や「～ニム」への統一の動きを取り上げ、フラットな社会への移行期にある呼称の葛藤を議論する。
7週目 韓国言語文化とオノマトペ：韓国語に膨大に存在する擬音語・擬態語（象徴詞）の音韻的特徴（陽語音・陰語音の対立による感覚の違い）を学ぶ。それらが文学表現、日常会話、あるいは現代のメディアでいかに生き生きとした情景や感情の描写に寄与しているかを体系化する。
8週目 韓国言語文化とタブー・婉曲表現：社会的に忌避される「タブー（禁忌語）」や、それを回避するための婉曲表現（例：死、病気、排泄、性に関する表現）を分析。文化的背景にある儒教的道徳観やシャーマニズム、現代社会の価値観の変化と言語の関係を考察する。
9週目 韓国言語文化とジェンダー：社会的な性差（ジェンダー）が言語にどのように反映されているかを学ぶ。「～（マニダ体/ヘヨ体）の選択比率」や男女による語彙・終結語尾の違い、伝統的な男尊女卑思考を内包する慣用表現、近年のフェミニズム運動に伴う言語改革（差別語の言い換えなど）について議論する。
10週目 韓国言語文化とメタファー（比喩・慣用句）：認知言語学の概念を取り入れ、韓国語の慣用句やことわざ（俗談）に現れる概念的メタファーを分析。「体の一部（手、足、腹など）」や「食文化（米、キムチ、味覚）」を用いた比喩表現から、韓国人の身体観や精神構造を解き明かす。
11週目 韓国のポライトネスと言語行動（面子と配慮）：話用論（語用論）の「ポライトネス理論」をベースに、韓国語の敬語法だけでは説明できない「面子（チェミョン/体面）」の維持、謝罪や依頼、断りの戦略を分析。衝突を避け、調和を保つための韓国特有の言語的配慮行動を解明する。
12週目 グローバル化・多文化社会と言語変容： 外来語・外国語（特に英語）の急速な流入（いわゆるKonglish）が韓国語の語彙体系に与えた影響を検証する。また、多文化家庭の増加に伴う「多文化韓国語」の登場や、国内外での言語アイデンティティの変容について議論する。
13週目 現代韓国社会の流行語・新造語と世代間ギャップ：インターネットやSNS（略語、子音のみの表現など）、若者文化から生まれる新造語（例：～族、～ポ（放棄）世代）の言語的特徴を分析。これらが反映する現代の若者の心理や社会不安、それによる他世代とのコミュニケーション断絶と融合を検証する。
14週目中韓摩擦と韓国言語文化：中韓の歴史的・現代的な相互認識が、言語やディスコース（言説）にどのように投影されているかを批判的に考察する。伝統的な漢字文化圏における「中華」との関係性や、近代の脱中華・ハングル専用化に伴う言語ナショナリズムの変遷を検証。さらに、近年のネット空間やメディアに現れる新造語・エスニック・スラー（民族差別表現）の分析、および文化の帰属（キムチや韓服など）を巡る論争がもたらす言語的摩擦と、漢字を媒介とした東アジア共通のコミュニケーションの可能性について議論する。
15週目 韓国言語文化研究の現状と展望：第1回から第14回までの内容を振り返り、言語文化アプローチが持つ有効性と課題を整理。
16週目 試験やレポートに対するフィードバック（テスト返却、講評など）を実施する。ただし、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行う。

テキスト

李美香他(2020)『韓国の言語文化』、疎通（韓国語）

参考書・参考資料等

金徳豪他(2024)『韓国人のための韓国語文化論』亦樂（韓国語）

成績評価の方法・基準

最終レポートに対する評価、口頭発表に対する評価による。

更新日付

2026/07/02 09:51